

令和5年度 授業改善推進プラン 第4学年

小平市立小平第三小学校

各教科及び 道徳	学力調査等の結果分析 児童の学習状況	指導上の課題	改善の計画	プランの評価方法
国語	- 学習支援ソフトを活用して、自分の思考をまとめられるようになっている。書くことが苦手な児童も、積極的に取り組んでいる。 - 小グループでの意見の交流では、積極的に発言できる児童が増えている。	- 漢字、ローマ字の定着、活用が得意な子と苦手な子の差が大きい。 「要約」「目的」など、言葉の理解が不十分な児童が多い。 - 問題文の問いに対する答え方が身に付いていない児童が多いため、引き続き指導が必要である。	- 単元ごとに身に付けさせたい資質・能力を明確にする。 - 自分で読み深めたことを、友達と交流し、考えを広げる活動を確保する。 - 読書活動や音読を通して語彙量を増やす。 - 文章を書くときには、段落構成や言葉の使い方などはっきりとした型を提示し、型をまねながら各活動を設定していく。	- 単元テストなどで、80%以上とれているかで評価する。 - 作文や学級新聞など、文章を書く活動で漢字、文法を正しく使っているか評価する。 - 評価基準を明確に示し、自己の学習状況を本人が把握できるようにする。
社会	- 社会事象に対する見方・考え方を提示しながら学習させたことで、自分の生活との関わりを踏まえながら理解できている。 - 様々な表現方法を用いて、意欲的に学習内容をまとめる活動に取り組むことができている。	- 社会事象の関連と結び付ける力に課題がある。 - 調べる活動をする際、分かったことと考えたことの区別できるように指導していきたい。 - 複数の資料を関連付けて考えを形成する力に課題がある。	- 東京都の地理的環境、産業と交通網の様子や関係について、理解させる。 - わたしたちの健康な暮らしを支える人たちの工夫や努力に気づき、自分にできることを考え、実行に移そうとする。 - 地図や資料での調べ活動を取り入れ、資料の読み取りなどに慣れ親しませる。 - 資料から必要な情報を読み取る活動と、それを発表し合う活動を設定する。 - 必要に応じて、児童の意見を教師が事実と考えに分類することで、児童が区別して考えられるように指導していく。	- 単元テストで習熟度を把握し、振り返りの学習に取り組んだり、以降の単元の指導に生かしたりする。 - 振り返りやノートの記述を見て評価する。
算数	- 自分の考えを具体的に書き、自分なりに言葉で説明しようとする姿勢が見受けられる。 - 前学年のベーシックドリル診断テストでは、数の構成や単位換算、簡単な分数の計算は概ね理解できていた。 - 分からない問題に対しても、粘り強く取り組んでいる。	50分後や50分前の時刻を求めるとき、午前、午後をつけ忘れる等注意深く回答する習慣がついていない。 1億より大きい数の読み方や、10倍、10分の1にする問題、3けた×2けたの筆算が苦手である。 - 文章をしっかりと読んでいる児童が少ないため、単位のつけ忘れが多い。 - 少数の仕組みや単位の概念的な理解ができていない児童がいる。	- 時刻と時間は日常生活で使う機会を増やす。 - 声に出して問題を読んだり、問題の場面を図に表す活動を増やしたりして、問題や単位を正しく読み取れるようにする。 - 数直線やグラフを扱う単元で、1めもりがいくつを表すのかを考える時間を確保し、正しく読み取れるようにする。 - タブレットドリルを活用し、習熟をはかる。 - 宿題などで復習を繰り返し行う。	- 普段のワークテストで80%以上とれているかで評価する。 - ノートやホワイトボードに自分の考えを書く時間を確保し、説明ができているかどうかで評価する。 - 東京ベーシックドリルの診断テストで80%以上取れているかで評価する。
理科	- 問題解決学習の過程を理解し、実験を行っている。 - すすんで実験に取り組もうとしている。 - 植物の観察では着目する点を示すことで、ワークシートにまとめることはできる	- 予想をたてるときに、生活経験や既習の内容を根拠に予想を立てたり、仮説を発想したりすることに課題がある。 - 実験器具の使い方を習得させていく必要がある。	- 学習したことと日常生活の経験を関係づけて考えられるようにし、理科の知識を身近に感じられるようにする。 - 理科的用語・知識を振り返り、プリントなどを活用して定着を図る。 - 理科の「見方・考え方」を働かせることができるような授業構成をする。 - 学習者用端末を実験、観察、調べ学習に活	- 実験の前に予想をたてるとき、グループなどで予想の交流を行い、実験前に自分の考えを深めているかで評価する。 - 適宜ノート評価をし、よりよいノート作りを実感できているかで評価する。

			用する。	
音楽	• どの活動も楽しんでいる。 • 活発で、のびのびと表現することができている。 • 発表したり一人で演奏したりすることが得意である。 • リコーダーの指づかいを確認しながら取り組むことができている。	• リコーダーの指づかいを理解していない児童がいる。 • 基本的な発声法から、高音域の発声へつなげていく。	• リレー形式や「まねっこ遊び」により、リコーダーの基本的な運指と音色の出し方を身に付けさせる。 • 簡単な言葉遊びを通して、音楽づくりを楽しむとともに、互いに聴き合うことによって自分の考えに広がりをもたせる。 • 短時間の協働的な活動において、ルールについて考えさせるとともに、コミュニケーションスキルを培っていく。 • ICT を活用し、地域の民謡など調べ学習をする。	• ワークシート他の提出物で評価する。 • 協働的な活動の様子と振り返りシートで評価する。 • ミニ実技テストで評価する。
図画工作	• 材料・用具を生かした技法に興味関心を持ち、主体的に製作している。	• 自分や相手の作品に興味関心を持ち、よさやおもしろさを鑑賞し合うことが必要である。	• 学習支援ソフトを活用して、製作した作品を鑑賞し合う。	• 振り返りシートを使って、製作過程ごとの自己評価や作品の変化を見て評価する。
体育	• 折り返しリレーでは、グループでバトンの受け渡し方法について話し合い、スピードにのったバトンパスができるようになってきた。 • マット運動や水泳運動では、自分の課題に合わせた場を選んで練習することができる。	• 柔軟性、跳躍力、体幹操作等、基礎的な運動に課題が見られる。 • 互いの動きの良い点や改善点を伝え合う活動に課題がある。	• 準備運動に柔軟性を高める運動を取り入れ、背骨や関節を柔らかく使い、柔軟性を高める。 • 補助運動を計画的に行い、基礎的な運動能力の向上を図る。 • 運動のポイントや手本となるものを提示することで視点を与え、互いの良い点や改善点を伝え合うことができるようにする。	• 体育ノートなどの振り返りの記述で思考力・判断力・表現力等を評価する。 • 単元を通して学びに向かう力、知識・技能、思考力・判断力・表現力等をバランスよく計画的に評価する。
外国語活動	• 外国語に親しみ、楽しく使おうとする意欲が見られる。 • 他国の文化を知り、自国と比べて考えている。	• 楽しく使おうとする意欲はあるが、児童自らが状況に応じて、思考・判断し、試行錯誤させるのが難しかった。言われたことをやろうとするが、状況や意味を考えずに、使っている。	• 学習支援ソフトを使って話す・聞くのスキルを高める。 • 学習者用端末を使って発音練習をする。 • 主体的な学びを通して、自分の良いところを伸ばすことができるようにする。	• 発言やつぶやき、活動の様子や振り返りの記述で評価する。
道徳	• 話し合いを通して自分事として考えたり、自己の行動を振り返ったりしている。	• 自分を振り返ってこれからの姿を考えることはできたが、それがなかなか実践につながらなかった。	• 教材を読んで心に残ったことを出し合い、話し合いに活かす • 話し合いのきまりを意識させて、話し合い活動を取り入れる。 • 展開後段で記述したものを活用して、自分を振り返って考える時間を大切にする。	• 授業中の発言、つぶやきで評価する。 • 振り返りに今まで、これからの自分について記述できたかで評価する。